

## 第3章 コミュニティにおける情報伝達・共有の重要性

本章では2012年冬に実施した『薄磯・豊間コミュニティ調査』の結果を中心に論じる。具体的には、震災前/後のコミュニティ活動や元居住地への復帰意向が、ふだんの情報伝達・共有に大きく関わることを示す。また、震災前は薄磯区、豊間区のそれぞれを全体の単位で、震災後は薄磯区+豊間区、各地区、震災前から住む自宅/震災後に住み始めた住宅で分析を進めていく。

その理由であるが、薄磯区で震災前266世帯のうちの大多数が被災したことで他地区居住を余儀なくされており、設問によっては地区別の集計より元/現居住のセグメントの方がより実態を明らかに出来るからである。

### 3.1 震災前のコミュニティ活動

#### (1) 人的ネットワーク

##### 【薄磯区】

はじめに震災前の人づきあいをみていこう(図3-1-1)。薄磯区全体では「家族・親戚」や「友人・知人」(89.6)、「薄磯区の人」(83.3)、「隣近所」(81.3)が多く、地域内のつながりは確保されていたことがうかがえる。

そこで特につきあいのある人についてみると、先と同様に「家族・親戚」(64.6)、「友人・知人」(62.5)であることは変わらないが、「隣近所」(43.8)や「薄磯区の人」(20.8)となっており、つきあいはあるもののそれは密な関係ではないようだ。

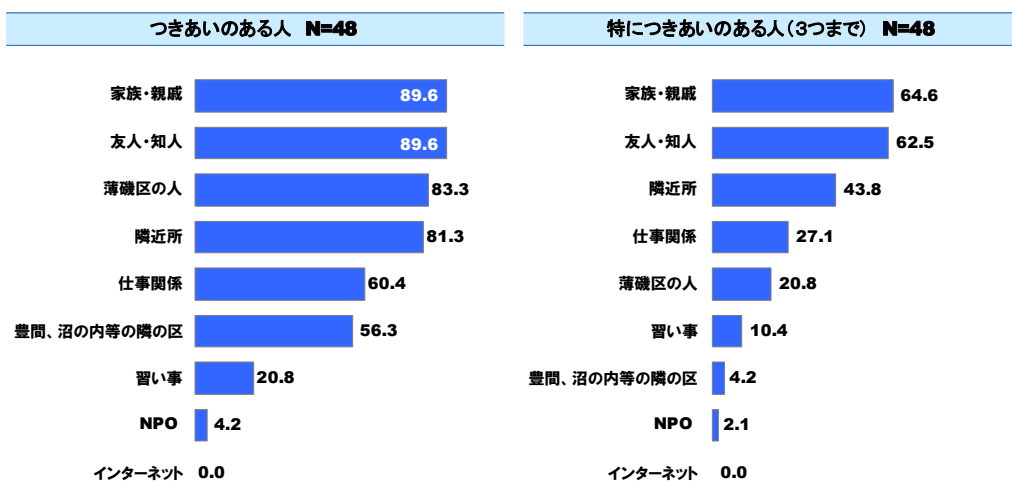


図3-1-1 震災前につきあいがあった人(薄磯区) 単位:%(以下同)

## 【豊間区】

次に豊間区での震災前の人づきあいを確認する(図 3-1-2)。「家族・親戚」(96.2)、「友人・知人」や「隣近所」(89.4)、「豊間区の人」(81.1)が多く、薄磯区と同様に地域内のつながりはあるようである。

続いて、特につきあいのある人は、「家族・親戚」(80.3)、「友人・知人」(62.1)であることは変わらないが、「隣近所」(48.5)や「豊間区の人」(22.7)であり、薄磯区と同様に地域内のつながりはさほど密ではないことがうかがえる。

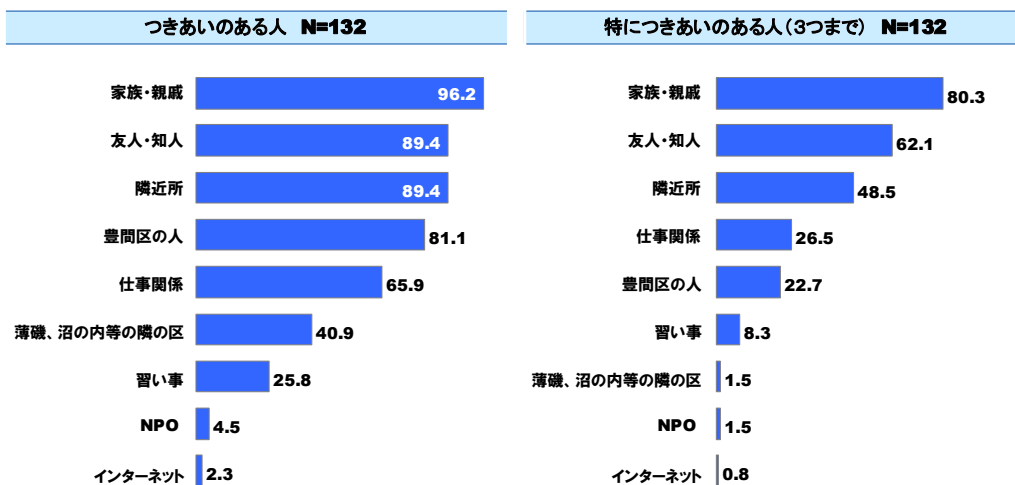


図 3-1-2 震災前につきあいがあった人(豊間区)

## (2) コミュニティ活動

## 【薄磯区】

次に薄磯区内における震災前1年間での自治会への諸活動・組織への参加状況について確認する(図 3-1-3)。活動で多いのは「地域の清掃美化」(81.3)と約8割であるものの、その他の活動はいずれも2割未満であった。行事は「神社祭礼」(62.5)や「冠婚葬祭」(52.1)が5割を超え、「自治会の総会」は3割であった。組織への参加は、「体育協会」(12.5)、「防犯協会」や「氏子会・檀家組織」(10.4)と、多いものでも1割程度であり、「参加なし」は5割を超えていた。

## 【豊間区】

次に豊間区内について確認する(図 3-1-4)。活動で多いのは「地域の清掃美化」(80.3)と約8割であり、その他の活動はいずれも2割未満と薄磯区と同様な結果である。行事を見ると、「神社祭礼」(59.1)や「冠婚葬祭」(54.5)が5割を超えているのは薄磯区と同傾向であるが、相違があるのは「自治会の総会」は3割に満たない点である。組織への参加は、「氏子会・檀家組織」(22.0)だけが2割を超えているだけで、「体育協会」(14.4)や「子供会育成会」(13.6)以外はいずれも1割に満たないなかで、「参加なし」は4割を超えていた。

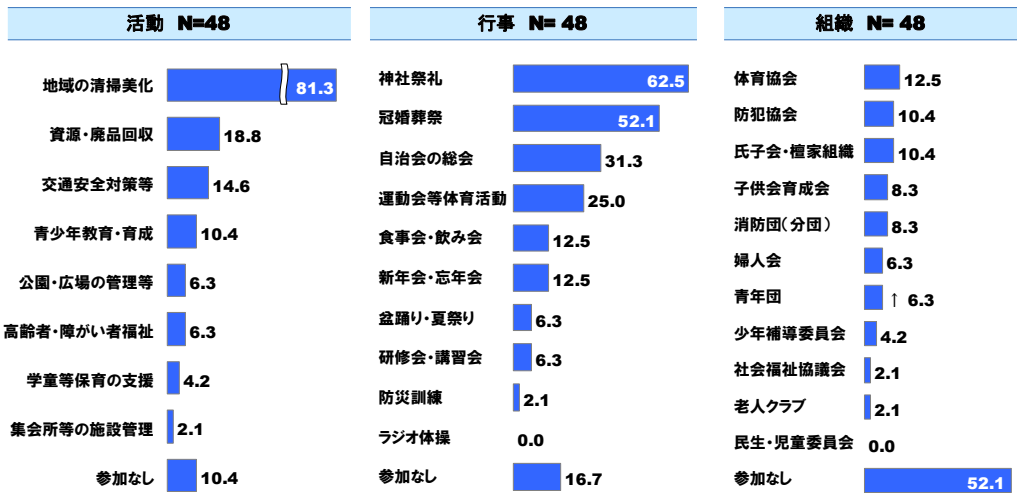


図 3-1-3 震災前の活動・行事・組織への参加 (薄磯区)

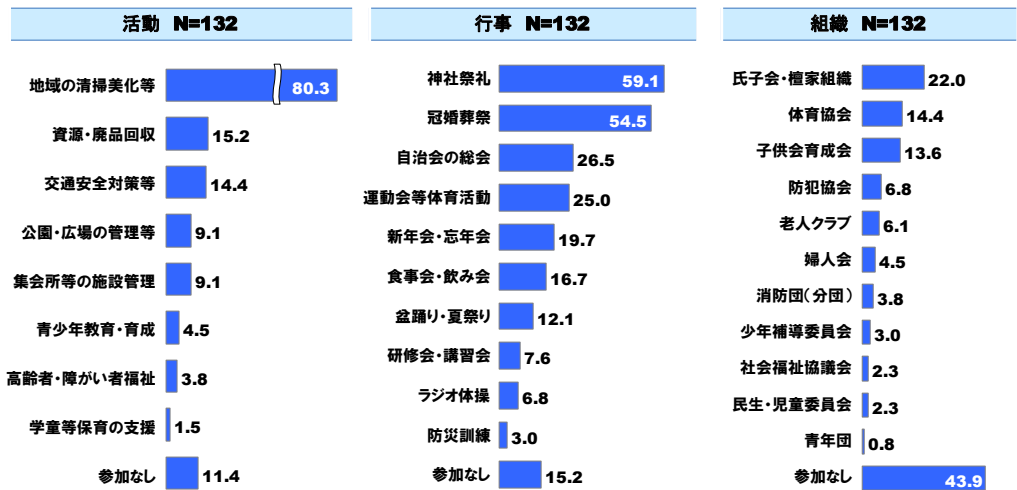


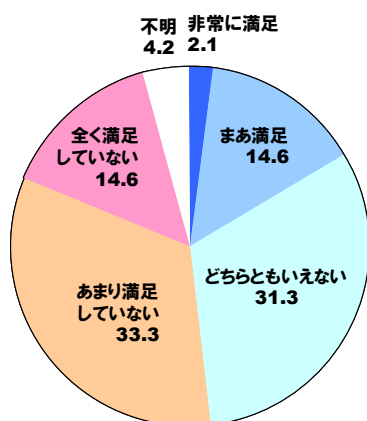
図 3-1-4 震災前の活動・行事・組織への参加 (豊間区)

### (3) 自治会評価と情報伝達・共有評価の関係

薄磯区の震災前の自治会評価について確認しよう (図 3-1-5)。「非常に満足」(2.1)、「まあ満足」(14.6) と肯定的な評価をしている人は2割に満たなかった。

豊間区については、「非常に満足」(3.8)、「まあ満足」(31.8) と肯定的な評価をしている人は3割程度に留まったものの、薄磯区に比べると満足度が15pt以上高い結果となった。

震災前の自治会評価 N=48



震災前の自治会評価 N=132

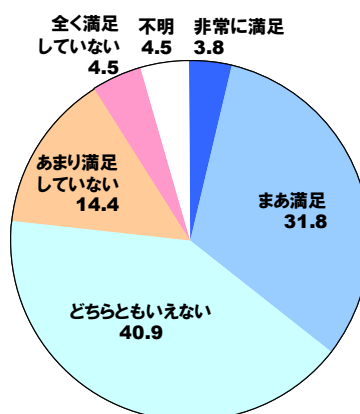


図 3-1-5 自治会評価と情報評価の関係 (左: 薄磯区・右: 豊間区)

薄磯・豊間両区をあわせて情報伝達・共有の評価とのかかわりをみていくと(表 3-1-1)、ふだんの情報伝達・共有に満足している人が自治会への評価が高く、一般住民にとっての自治会に関する情報伝達・共有が重要であることがわかる。

表 3-1-1 自治会評価と情報評価の関係 (薄磯区+豊間区)

		自治会満足度						不明
		全体	非常に満足している	まあ満足している	どちらともいえない	あまり満足していない	まったく満足していない	
情報満足度	全体	180	3.3	27.2	38.3	19.4	7.2	4.4
	非常に満足している	8	▲ 25.0	37.5	∴ 12.5	-	-	▲ 25.0
	まあ満足している	47	6.4	▲ 63.8	▽ 21.3	▼ 4.3	∴ 2.1	2.1
	どちらともいえない	66	-	▽ 15.2	▲ 65.2	16.7	∴ 3.0	-
	あまり満足していない	37	2.7	▽ 10.8	29.7	▲ 43.2	∴ 13.5	-
	まったく満足していない	9	-	-	22.2	↑ 44.4	▲ 33.3	-

#### (4) 情報伝達・共有の内容

前項では情報満足度と自治会満足度に正の相関があることを確認したが、本項では実際にどんな方法でまたどんな情報が伝達・共有されていたのかを明らかにしていく。

##### 【薄磯区】

区全体での情報伝達・共有の方法は「回覧板」(79.2)が約8割と最も高い(図 3-1-6)。他は「直接会って」(33.3)や「国・自治体発行の広報誌」(22.9)であるものの、それ以外はいずれも2割未満であり、「回覧板」がほぼ唯一の手段となっていることがうかがえる。

続いて情報の内容であるが、「国・自治体発行の広報誌」(52.1)や「役員会等に関する情

報」(45.8) が約5割であるのに対して、「防災・防犯に関する情報」(29.2) などはいずれも3割未満であった。

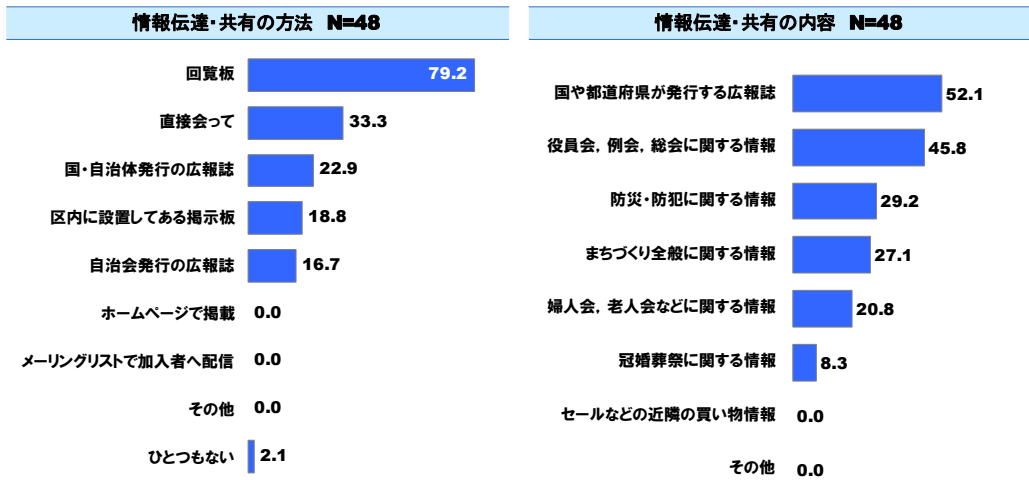


図 3-1-6 情報伝達・共有の方法と内容 (薄磯区)

【豊間区】

豊間区での方法は「回覧板」(91.7) が9割に達しており(図 3-1-7)、それ以外は「国・自治体発行の広報誌」(40.2)、「直接会って」(37.9)、「自治会発行の広報誌」(31.1)と、比較的多様な方法で伝達・共有していることがうかがえる。

内容であるが、「国・自治体発行の広報誌」(59.8) が約6割であるのに対して、「防災・防犯に関する情報」(46.2) や「役員会等に関する情報」(43.2)などは4~5割であった。

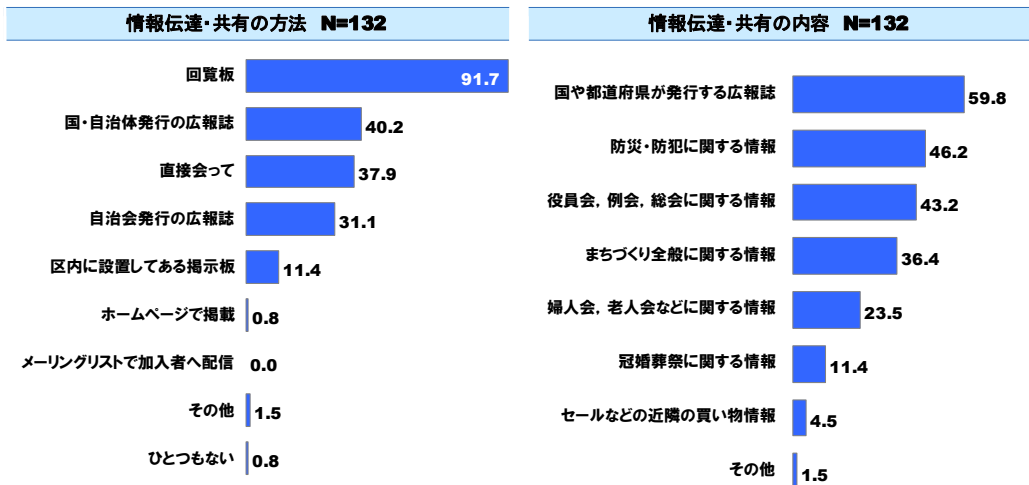


図 3-1-7 情報伝達・共有の方法と内容 (豊間区)

## (5) 大地震等への事前対応

### 【薄磯区】

震災への地域の事前対応を確認する（図 3-1-7）。薄磯区では大地震などへの対応について「話し合った」のは全体の四分の一である。

話し合った相手を見ると「自分の家族・親戚」（83.3）が 8 割以上であり、「近所」（50.0）が半数に達しているが、「区の人」（16.7）は 2 割にも達せず、地域での対応というよりは身内で話す程度にとどまっていたようだ。

内容であるが、「避難の方法・時期」（83.3）が 8 割を超えただけで、あくまでも個人・家族単位での対応といえよう。

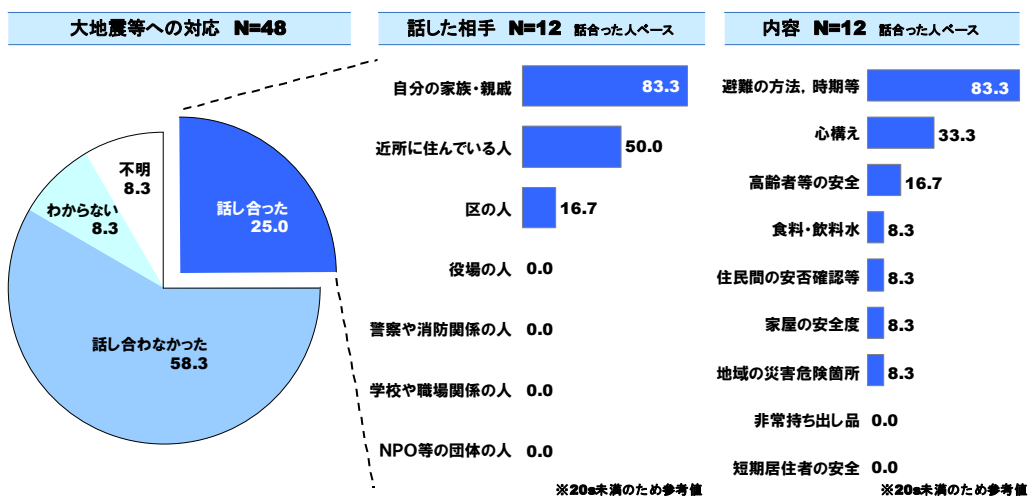


図 3-1-7 大地震等への事前対応（薄磯区）

### 【豊間区】

同様に豊間区について確認してみよう（図 3-1-8）。「話し合った」のは全体の四割強であり、薄磯区に比べると 20pt 近く大きく、事前対応については豊間区の方が（相対的に）なされていたことがうかがえる。

話し合った人について、その相手を見ると「自分の家族・親戚」（86.4）が 8 割以上、「近所」（49.2）は半数に達しているが、「区の人」（20.3）は 2 割程度であり、地域での対応というよりは身内で話す程度にとどまっていたのは薄磯区と同様である。

最後に内容については「避難の方法・時期」（76.3）が約 8 割に達しているだけで、あくまでも個人・家族単位での対応といえ、これも薄磯区と同じ結果であった。

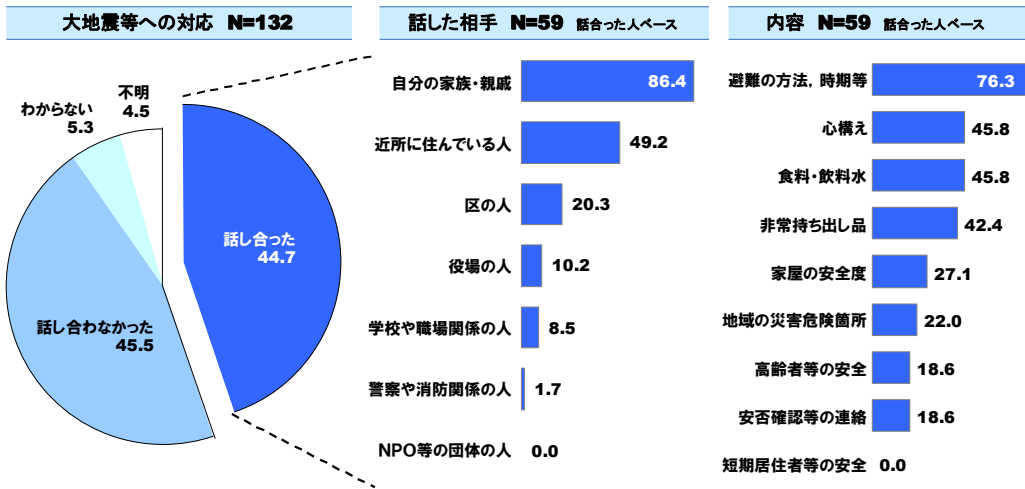


図 3-1-8 大地震等への事前対応（豊間区）

### 3.2 震災後のコミュニティ活動

#### (1) 現在の住まい・暮らし

現在に至るまでの生活状況について確認する（図 3-2-1）。調査協力者ベースであるが、現在の居住地をみると「薄磯・豊間区」（26.1）、「その他いわき市」（62.8）であり、「福島県外」（7.2）、「その他福島県内」（1.1）という結果であった。居住形態であるが、薄磯区は「国・自治体による借り上げ」（45.8）と「仮設住宅」（12.5）で約 6 割であり、豊間区では「震災前から居住」（37.9）と同区の国・自治体借り上げと仮設住宅の和とはほぼ同数である。

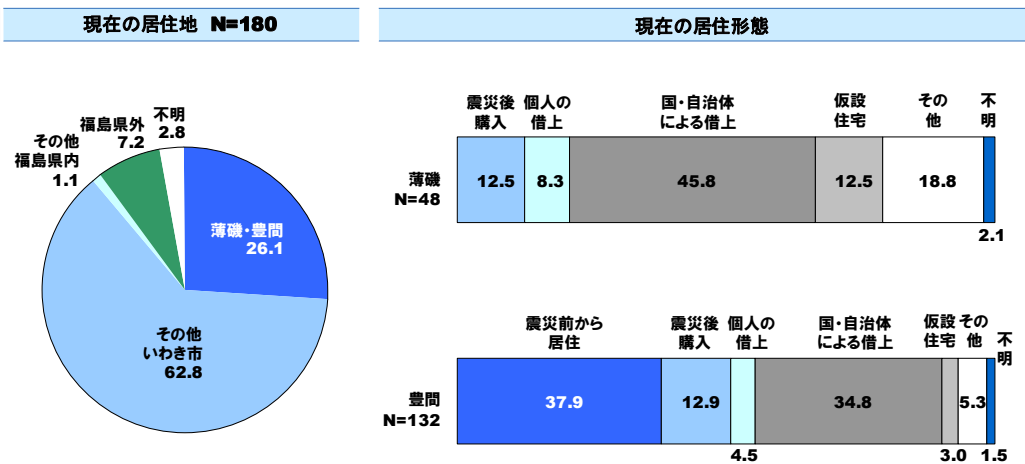


図 3-2-1 現在の居住形態（薄磯区＋豊間区）

## (2) 人的ネットワーク

次に震災後の人づきあいを見てみよう（図3-2-2）。薄磯区＋豊間区の全体では「家族・親戚の親戚」（89.4）や「友人・知人」（82.2）が多く、「隣近所の人たち」（51.7）は約半数であり、「自分の住んでいた区の人たち」（46.1）や「自分の住んでいた区役員」（26.7）は半数に達しなかった。

地区別でみると、薄磯区では隣近所というよりは自治会関係者との交流が多く、その一方で豊間区は家族・親戚や友人・知人が相対的に多く、両区でつきあいの範囲が異なっていることがうかがえる。

居住形態別では震災前から住んでいた自宅生活者は「家族・親戚」（96.0）や「隣近所の人たち」（80.0）である一方で、震災後に住み始めた住宅の人たちは「隣近所の人たち」（41.7）と40pt近く少なくなっており、地域のネットワークから疎遠になりつつあるといえる。

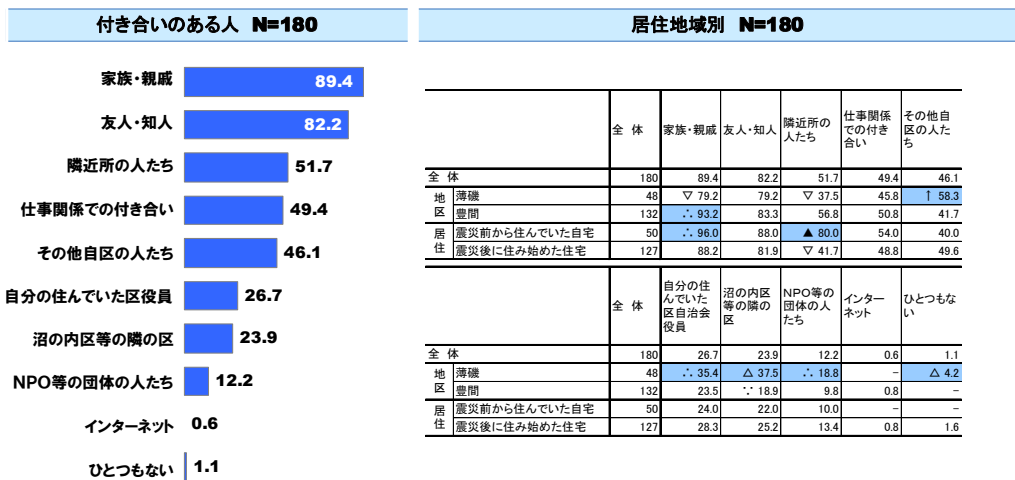


図3-2-2 現在の人づきあい（薄磯区＋豊間区）

## (3) 話題の内容

話す内容について確認する（図3-2-3）。「自分や家族の健康」（69.4）や「自分や家族の人間関係」（53.9）が半数以上を占め、「区内の被害状況」（40.6）や「区内に住む他の人の安否」（39.4）などはいずれも4割程度である。

居住地区別でみると、薄磯区／豊間区において差があるのは「移動手段・交通機関」（9.5ptの差）や「介護・福祉」（12.7ptの差）であり、これは調査対象者の60代以上比率が薄磯区よりも高いことが要因の一つと考えられる。

居住形態別については、震災前から住んでいた自宅生活者が「自分や家族の健康」（78.0）、「区内の被害状況」（52.0）、「自治会等の地域運営・活動」（48.0）、「移動手段・交通機関」（42.0）と、震災後に住み始めた住宅の人たちに比べても話題は多様であり、かつ自分たちの住んでいる区についての関心もあるようである。



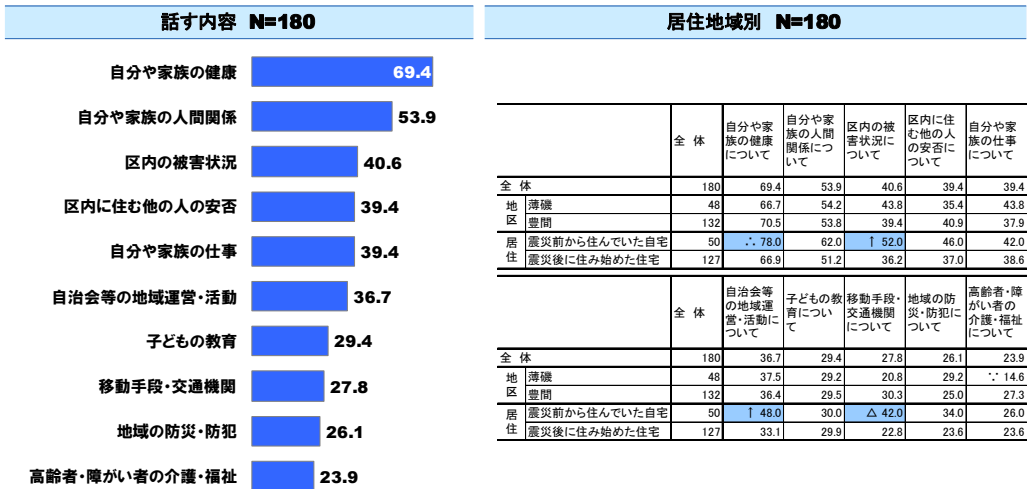


図 3-2-3 話題の内容 (薄磯区+豊間区)

(4) 情報伝達・共有の方法

情報伝達・共有の方法を確認すると(図3-2-4)、「自治会発行の広報誌」(56.1)、「回覧板」、「国・自治体発行の広報誌」(50.6)である。居住地区別でみると、薄磯区は「直接会って」(54.2)や「区内設置の掲示板」(50.0)であるのに対して、豊間区では「自治会発行の広報誌」(62.9)となっており、情報伝達・共有の方法についてはやや違いがみられる。

また、震災前から住んでいた自宅生活者が多くの情報伝達・共有の手段を持っていることがうかがえることから、地理的・距離的な障壁を克服する仕掛けが必要だといえる。

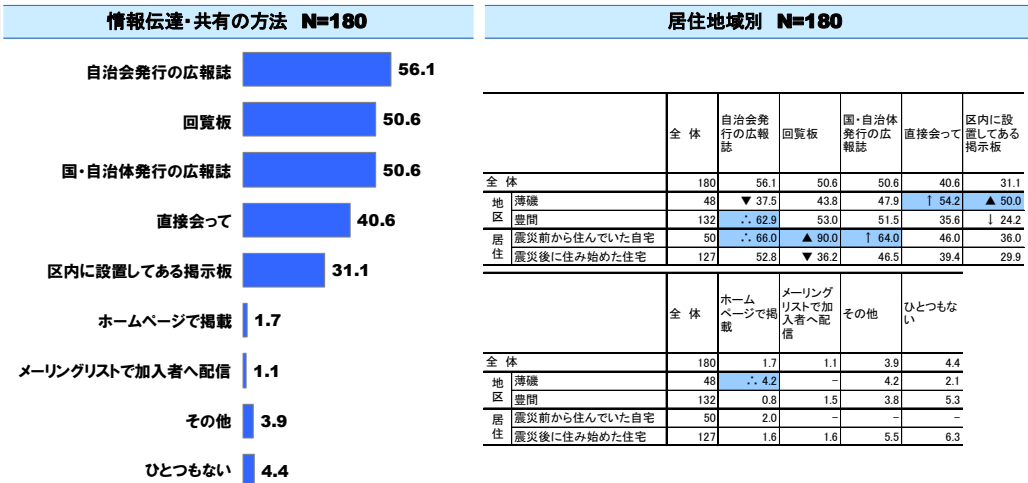


図 3-2-4 情報伝達・共有の方法 (薄磯区+豊間区)

### (5) 情報伝達・共有の内容

情報伝達・共有の内容については「震災復興等の情報」(68.9)が7割近いものの、「国や自治体発行の広報誌」(47.2)や「まちづくり全般に関する情報」(36.7)などはいずれも半数に達していない(図3-2-5)。

居住地域別では、薄磯区と豊間区で差があるのは「補償に関する情報」(薄31.3、豊21.2)「会合に関する情報」(薄27.1、豊15.2)、「区内被害状況」(薄10.4、豊19.7)であり、これだけでは断定できないが豊間区の人の方が区への関心がやや高そうである。

また、震災前からある自宅に住んでいる人が「震災復興等の情報」(78.0)、「国や自治体が発行する広報誌」(60.0)、「会合に関する情報」「区内の被害状況」(26.0)等と、多様な情報伝達・共有がなされており、ここでも情報に関する格差(ディバイド)を一現在の居住形態において一確認することが出来る。

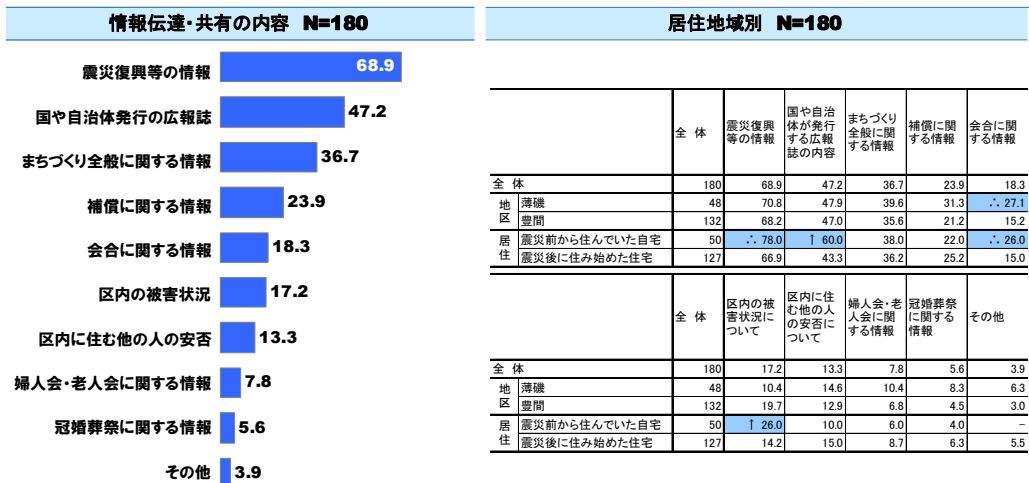


図3-2-5 情報伝達・共有の内容(薄磯区+豊間区)

### (6) 情報伝達・共有の評価

現在の情報伝達・共有への評価はどうだろうか(図3-2-6)。薄磯区+豊間区の全体で見ると「非常に満足」(3.3)や「まあ満足」(23.9)と、情報伝達・共有に満足している人は全体の約四分の一程度に留まる。

居住地域別で薄磯区に多いのは「あまり満足していない」(31.3)、豊間区では「まあ満足している」(26.5)であり、相対的に豊間区においては情報伝達・共有への評価が高いようだ。

居住形態別については、震災前から住んでいた自宅生活者で「どちらともいえない」(48.0)、震災後に住み始めた住宅の人たちは「あまり満足していない」(27.6)であり、(5)と同様に居住形態や元居住地からの距離が要因となる情報格差が存在している可能性が高い。

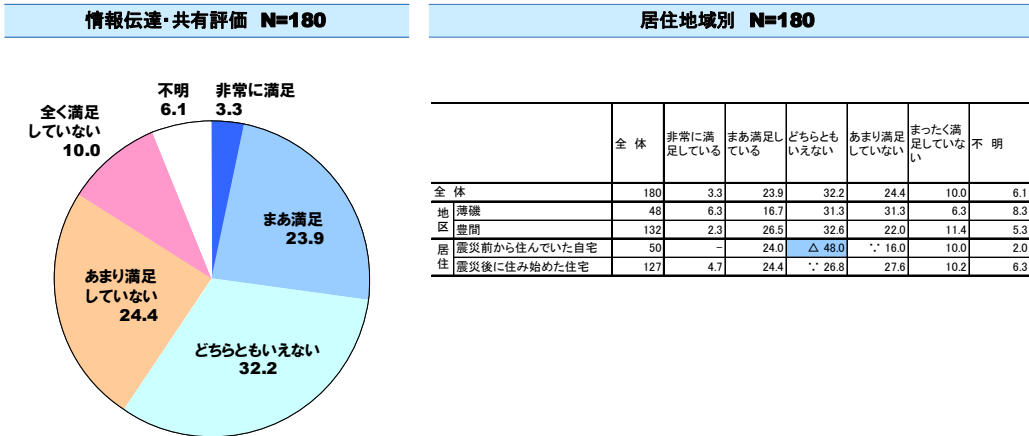


図 3-2-6 情報伝達・共有の評価 (薄磯区+豊間区)

### (7) 住民のコミュニティ意識

地域や自治会の活動に関する 17 つの意識項目を因子分析したところ (図 3-2-7)、「地域をよくするのに役立ちたい」や「地域の必要な情報が得られる」等の『共生志向』、「活動・行事・組織に必要性を感じない」や「活動時間が確保できないため参加できない」等の『個人主義』、「隣近所とのつきあいがあるため参加している」や「親の代から住んでいるので参加している」等の『消極的参加』の 3 軸が抽出された。

これらの因子と情報伝達・共有への評価との関係を見ると、情報伝達・共有に満足している人は共生志向が強いが、不満である人は個人主義や消極的参加への傾向がある。この解釈もあくまでも「相関」であるのだが、いずれにせよ情報伝達・共有が住民のコミュニティ意識の積極性/消極性をわける変数であることには留意すべきである。

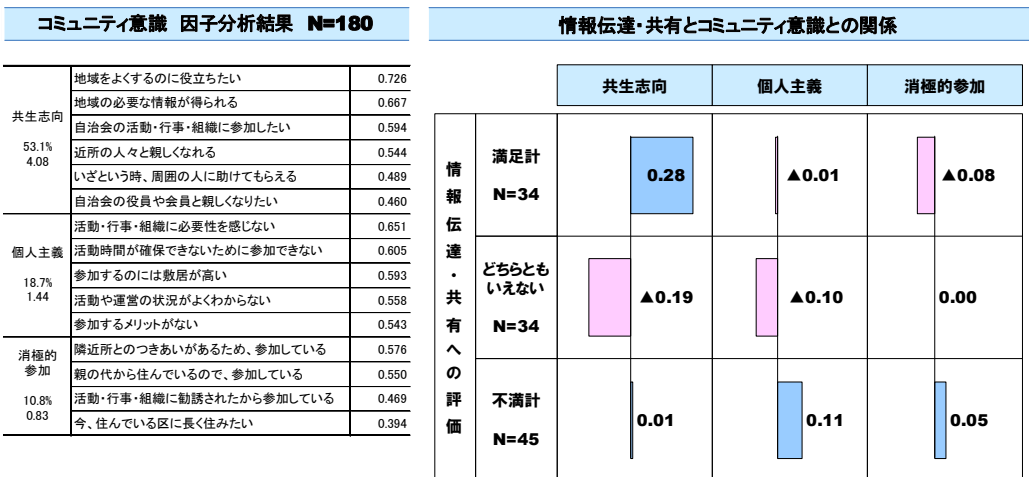


図 3-2-7 コミュニティ関与・活動に関する意識 (薄磯区+豊間区)

### 3.3 情報、コミュニティ、復帰意向の関係

#### (1) 今後希望する居住先

今後希望する居住先について確認すると（図 3-3-1）、薄磯区＋豊間区の全体では「自分の住んでいた／いる区」（59.4）と約 6 割であり、続いて「隣の区以外のいわき市内」（22.2）という結果であった。

居住地区別では、薄磯、豊間両区で「自分の住んでいた／いる区」が約 6 割とほぼ変わらないが、薄磯区の「まだ決めていない」（14.6）が豊間区に比べて多く、また「震災後に住み始めた住宅」の人は「隣の区以外のいわき市内」（27.6）への希望が多い。

居住形態別で見ると、震災前から住んでいた自宅生活者が「自分が住んでいた区」（70.0）であるのは自明であるとしても、震災後に住み始めた住宅の人たちに「近隣行政区以外のいわき市内」（27.6）が四分の一以上になっているのは、避難のための移住先が日常生活の場になりつつあることを意味しているといえる。

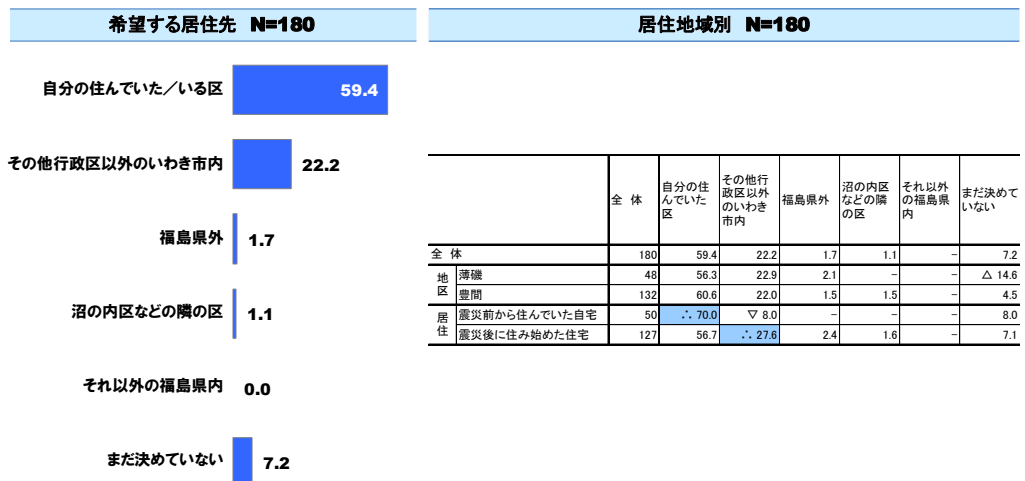


図 3-3-1 希望する居住先（薄磯区＋豊間区）

#### (2) 情報伝達・共有の重要性

本項では分析してきた自治会活動、人づきあい、情報伝達・共有や自分たちが住んでいた／住んでいる地区へのイメージと復帰意向と関係を、相関と因果の両方の説明を可能とする共分散構造分析で明らかにする。

簡単にモデルの説明を行おう（図 3-3-2）。四角の箱は本調査により直接（または変数の加工により）得られた「観測変数」と呼ばれ、楕円形のもの観測変数により構成される『潜在変数』<sup>2)</sup>である。

具体的には『震災前活動資源』は「自治会活動数」・「自治会行事数」・「自治会組織数」で説明されるものとする。同様に『ネットワーク資源』は「震災前人づきあい数」・「避難時人づきあい数」・「現在の人づきあい数」、『情報伝達・共有』は「震災前伝達・共有方法」・「避

難時安否確認時期」・「避難時伝達・共有方法」・「現在の伝達・共有方法」、『薄磯 or 豊間イメージ』は「震災前自治会評価」・「避難時の情報伝達・共有評価」・「現在の情報伝達・共有評価」と設定する<sup>3)</sup>。

【薄磯区】

結論から先に述べると、薄磯区への復帰意向は情報伝達・共有に関わるのであり、それも「現在の伝達・共有手段」の整備如何に大きく左右される(図3-3-2)。これらの情報伝達・共有を支えるのが区内で形成される各個人のネットワーク(人づきあい)であり、それは震災前からの自治会活動に担保されている。

詳細に説明しよう。このモデルによれば、「活動数」や「行事数」で主に説明できる『震災前活動資源』によって、「現在の人づきあい数」と「避難時の人づきあい数」による『ネットワーク資源』が形成されることを意味している。この『ネットワーク資源』が「現在の情報伝達・共有方法」や「震災前の情報伝達・共有方法」といった『情報伝達・共有』を可能にさせており、ひいては「薄磯復帰意向」につながっていると解釈できるのである。

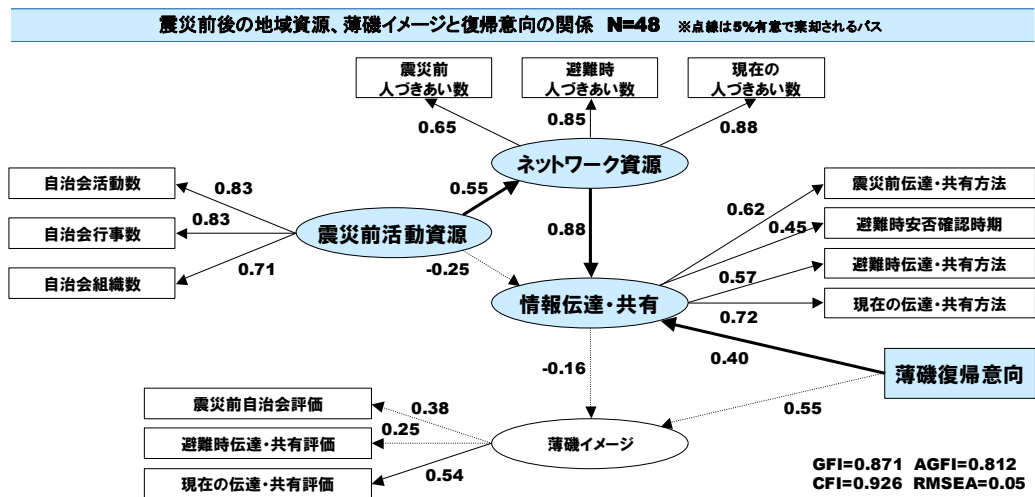


図3-3-2 地域資源、イメージと復帰意向の関係(薄磯区)

【豊間区】

豊間区についてであるが(図3-3-3)、大半が地区外で居住する薄磯区とは状況が異なる。具体的に言えば、各人の自区の印象を説明する『豊間イメージ』は『情報伝達・共有』に規定され、この潜在変数が「震災前の伝達・共有方法」に大きく左右される点である。つまり、これらの情報伝達・共有を支えるのが区内で形成される各個人のネットワーク(人づきあい)であり、それは震災前からの自治会活動に担保されているといえよう。

どちらの区に共通することは、情報伝達・共有が自区への愛着のようなものを生み出す鍵であり、それは各人が持つネットワークや自治会活動への参加が要因になる点である。

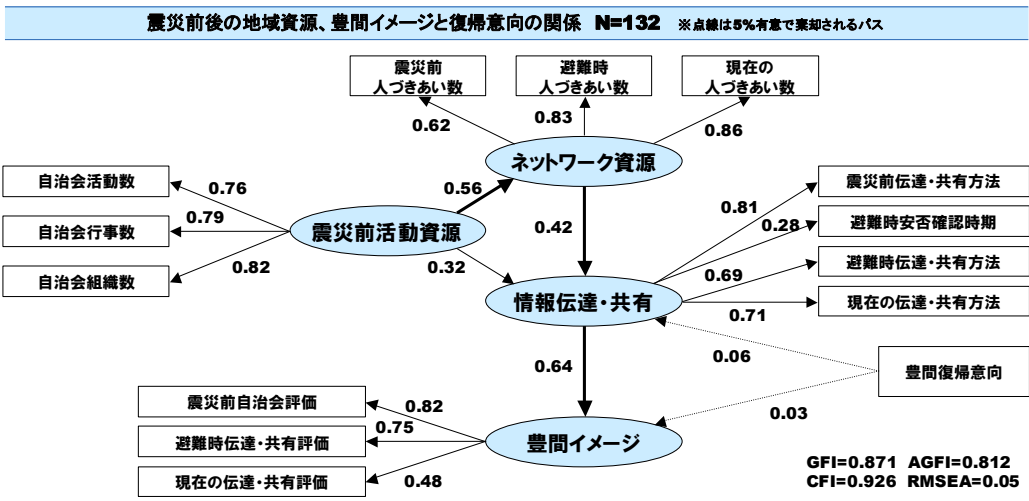


図 3-3-3 地域資源、イメージと復帰意向の関係（豊間区）

### (3) 期待する情報伝達・共有の内容と方法

(2)では情報伝達・共有の重要性を示したが、情報伝達・共有評価と期待する情報内容・方法とのかかわりを確認する(図 3-3-4)。「内容」については、現状の伝達に不満である人ほど「補償の情報」(▲8.2pt)への期待が高い。今までにこうした情報が十分に伝わっていないことを意味している。同様に「方法」については微差ではあるものの、現状の評価が低い人ほど「メーリングリストで加入者へ配信」(▲2.8pt)や「タブレット端末」(▲2.4pt)といった情報通信機器による伝達・共有を期待していることがわかる。

期待する情報伝達・共有内容 N=49:満足ベース N=62:不満ベース				期待する情報伝達・共有方法 N=49:満足ベース N=62:不満ベース			
情報伝達内容	現在の情報伝達		差 満足-不満	情報伝達方法	現在の情報伝達		差 満足-不満
	満足	不満			満足	不満	
国や自治体発行の広報誌	49.0	25.8	23.2	回覧板	46.9	30.6	16.3
会合に関する情報	18.4	6.5	11.9		自治会以外発行チラシ配布	46.9	32.3
区内の被害状況	20.4	9.7	10.7	ホームページで掲載		14.3	8.1
婦人会・老人会の情報	10.2	0.0	10.2	自治会独自の会報	67.3	67.7	▲0.4
冠婚葬祭に関する情報	30.6	21.0	9.6	タブレット端末配布	4.1	6.5	▲2.4
区内に住む他の人の安否	20.4	14.5	5.9	MLで加入者へ配信	2.0	4.8	▲2.8
近隣の買い物情報	6.1	3.2	2.9				
補償に関する情報	10.2	8.1	2.1				
まちづくり全般情報	91.8	90.3	1.5				
補償に関する情報	53.1	61.3	▲8.2				

図 3-3-4 期待する情報伝達・共有の内容と方法（薄磯区+豊間区）

これまで『薄磯区・豊間区コミュニティ調査』のデータを用いて、震災前／後の両区における生活の実態・評価・課題を確認した。更に共分散構造分析を用いることで、自地区への愛着（≒ロイヤリティ）はふだんの情報伝達・共有により規定され、それはふだんの人づきあいの数や自治会活動への参加状況により依存するものであることを明らかにした。逆に言えば、自治会をはじめとした地域住民組織によるコミュニティの活動が情報伝達・共有を可能にし、自地区への関心や愛着を創出する。それらを実現する鍵となるのが「情報伝達・共有」の充実であるといえる。

## 注

- 1) ただ、あくまでもこれら2変数間の相関に過ぎない。逆の視点では諸々の地域活動に参加→自治会などの地域コミュニティへの満足度が高まる→活動を通じて情報が多く入手できる→情報への満足度が高まるということも考えられる。この問題については3.3である程度、解決されるだろう。
- 2) 以下では観測変数を「〇〇」で、潜在変数を『〇〇』で表記することにする。また、紙面の都合上、誤差変数は略する。
- 3) 観測変数の加工方法について説明する必要がある。『震災前活動資源』の「活動数」・「行事数」・「組織数」は回答者が参加した数のそれぞれの和としている。同様に『ネットワーク資源』の「震災前人づきあい数」・「避難時人づきあい数」・「現在の人づきあい数」も各々の時点の人づきあい数の和である。『情報伝達・共有』も「震災前の情報伝達・共有方法」・「避難時の情報伝達・共有方法」・「現在の情報伝達・共有方法」は方法の数の和にしているが、「避難時安否確認時期」は次の方法で得点化している。すなわち、選択肢の「地震が起きてから津波が来る前まで（15時前後）」を7点、「その日（3月11日）」：6点、「一週間以内」：5点、「一ヶ月以内」：4点、「一ヶ月後となる」4月12日以降」：3点、「その他」：2点、「ひとつもない（安否確認は行われなかった）」：1点、「無回答」：0点として、被災直後の安否確認を最も高い得点に設定した。

更に「薄磯 or 豊間復帰意向」であるが、先と同様に「自分の住んでいる／住んでいた区」を5点、「隣の区」：4点、「近隣行政区以外のいわき市内」：3点、「いわき市以外の福島県内」：2点、「福島県外」：1点、「まだ決めていない」：0点と設定している。